

第5回埼玉県指定出資法人あり方検討委員会 議事概要

1 開催日時 令和7年3月25日（火）15時05分～15時25分

2 開催場所 埼玉県庁本庁舎2階 庁議室

3 出席者

(1) 委員

藤田 由紀子 委員長、伊藤 伸 委員、伊藤 麻美 委員、鎌田 竜彦 委員、栗田 美和子 委員、
穴戸 信敏 委員、中澤 和美 委員、林 直樹 委員、松川 晃代 委員

(2) 県

大野知事

企画財政部 中山部長、都丸政策・財務局長

行政・デジタル改革課 藤井課長、上田副課長、秋穂主幹、新井主査

4 次第

(1) 開会

(2) 議事

①報告の取りまとめ（最終案）

報告書最終案の内容について議論を行った。

(3) 知事への報告書提出・報告書の概要説明

（委員長）

会議資料4ページから6ページの「4 検討結果一覧」に基づき、組織のあり方検討の結果、「法人の廃止を検討すべき」「法人の統合を検討すべき」となった法人と、7ページの「6 今後の取組について」について説明させていただく。

法人番号1の秩父開発機構は、事業のあり方検討として、秩父ミュージックパーク指定管理業務は事業主体の見直しを検討すべき、埼玉県長瀬射撃場指定管理業務は事業の廃止または再構築を検討すべきとした結果、組織のあり方検討として、出資法人への関与の廃止を検討すべきとした。

法人番号4のいきいき埼玉と法人番号6の国際交流協会は、両法人の統合を検討すべきとした。いきいき埼玉の事業のあり方検討として、主な事業である県民活動総合センター管理事業は事業の廃止または再構築を検討すべきとし、国際交流協会の事業のあり方検討として、主な事業であるグローバル人材育成センター埼玉事業と外国人総合相談センター設置事業は事業主体の見直しを検討すべきとした。これを受けて、いきいき埼玉がこれまで培った高齢者やNPO支援などのノウハウは、国際交流・国際協力事業と親和性が高く、連携して対応することができると考えられることから、両法人の統合を検討すべきとした。

法人番号5の芸術文化振興財団と法人番号11の産業文化センターは、両法人の統合を検討すべきとした。芸術文化振興財団の事業のあり方検討として、県立文化施設管理事業は事業主体の見直しを検討すべきとし、産業文化センターの事業のあり方検討として、主な事業であるビル貸出管理事業やホール管理事業等は事業の執行方法の見直しを検討すべきとした。両法人は、県立文化施設を管理運営するという点で共通しており、互いの持つ強みやノウハウを生かすことでそれぞれの価値を高め、更なる文化の振興に繋げることができると考えられるため、両法人の統合を検討すべきとした。

法人番号8の緑のトラスト協会は、事業のあり方検討として、緑のトラスト保全地保全管理・運営事業、さいたま緑のトラスト基金募金・広報活動事業のいずれも事業主体の見直しを検討すべきとした結果、組織のあり方検討として、法人の廃止を検討すべきとした。

法人番号16の河川公社は、事業のあり方検討として、マリーナ事業は事業主体の見直しを検討すべきとした結果、組織のあり方検討として、法人の廃止を検討すべきとした。

法人番号20のさいたまリバーフロンティアは、事業のあり方検討として、ゴルフ場の運営・管理は事業主体の見直しを検討すべきとした結果、組織のあり方検討として、出資法人への関与

の廃止を検討すべきとした。なお、当該法人は地方公営企業である企業局が出資する法人という特性を踏まえ、健全な経営が行われている現在の状況からは企業局の判断を尊重するとしている。

最後に今後の取組について、本報告書は限られた時間と情報の中で、我々委員の立場から今後の指定出資法人の改革の方向性を示したものであり、県においては、本報告書の内容が着実に実行され、改革が先延ばしにされることのないよう、指定出資法人改革に取り組まれることを期待する。

(4) 挨拶

(知事)

委員の皆様には、御多忙の中、指定出資法人のあり方の見直しに関して様々な御意見を取りまとめいただいたことに、心から感謝を申し上げます。

先ほど委員長から、「本報告書の内容が着実に実行され、改革が先延ばしにされることのないよう、埼玉県及び各指定出資法人における熟慮断行を切に願う」との報告書をいただいた。報告内容については十分に拝読し、最大限尊重してまいりたい。

私はこの知事という職に就いてから、超少子高齢化や人口減少が進む中で、税収の減少や職員の不足など、待たなしの状況にあることを常に認識している。使いやすい事業や組織があるからということ、全く存在の理由がないとは思わない。しかしながら、このような状況下では、そのような理由で残していくのは、私は決していいことではなく、見直しが必要だと考えている。

そういった意味でも、我々がやらなければいけないことをこのような形で御報告いただき、本当にありがたいと思っている。今後も不断の見直しを図っていきたいと考えており、それが埼玉県が生き残る、あるいは持続的に発展する道だと思っている。委員の皆様には引き続きお力添えをいただけるようお願い申し上げますとともに、ますますの御健勝と御発展を祈念し、私の挨拶とさせていただきます。

(5) 閉会